

TS 交換標準データ変換プログラム操作マニュアル(V20120615)

TS 交換標準データ変換プログラム（以下、本システム）は、TSを用いた出来形管理で取得した施工管理データを、TSデータ交換標準※ Ver.2.0 準拠から Ver.4.0 準拠へ変換するソフトウェアです。

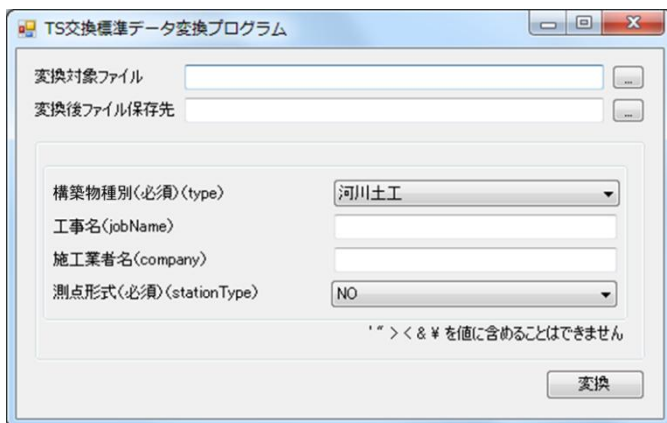
主な役割は、「変換前データの記述ルールの確認、必須情報の追加、データ構造の変換」です。

※：「TSによる出来形管理に用いる施工管理データ交換標準(案)」の略称

1 操作手順

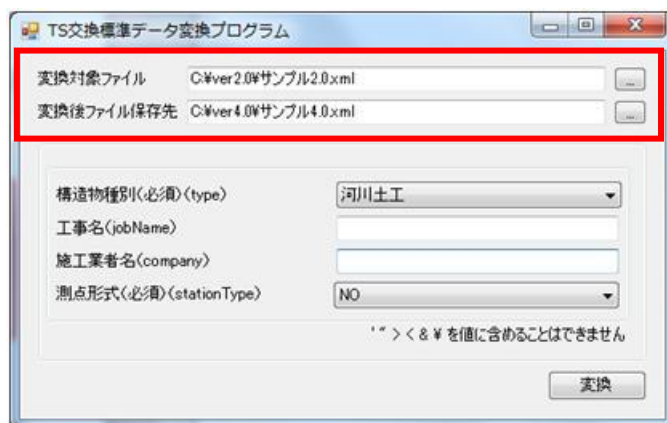
Step.1 プログラムの起動

「TS交換標準データ変換プログラム.exe」をクリックして本システムを起動します。

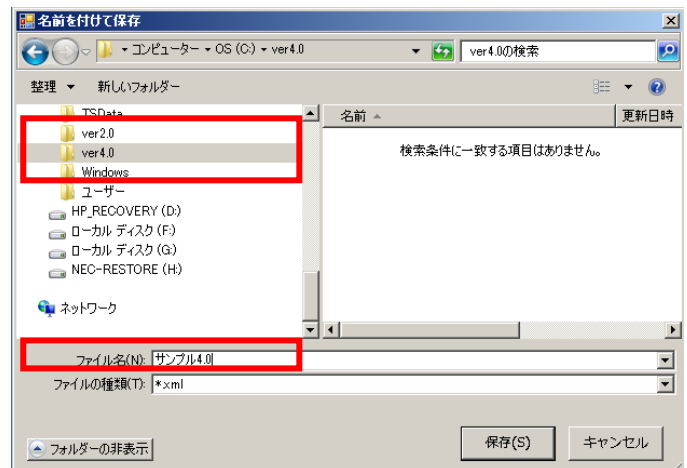


Step.2 ファイルの指定

変換対象ファイルを、右の[...]ボタンをクリックしファイルを選択します。



変換後ファイル保存先を、右の[...]ボタンをクリックして出てくる【名前を付けて保存】画面で、保存したいドライブやフォルダを選択すると共に、変換後のファイル名を入力し、[保存]ボタンをクリックして入力します。



Step.3 追加情報の入力

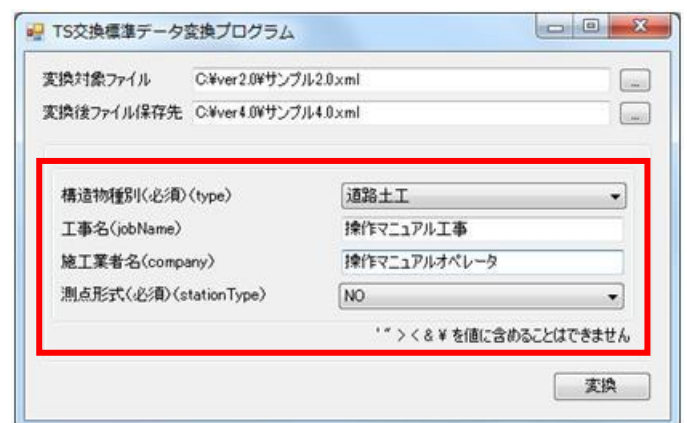
構築種別（＝工種）を「河川土工、道路土工」より選択します。

工事名を入力します。（例：〇〇建設工事）

施工業者名を入力します。（例：(株)〇〇建設）

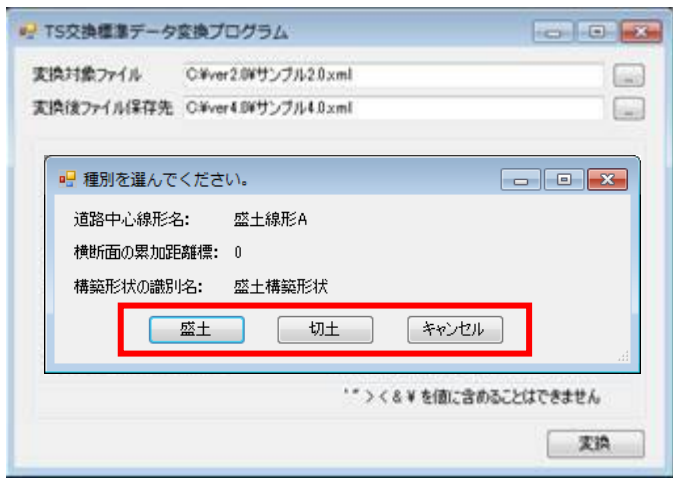
測点形式を、「NO、SP、STA、距離標」より選択します。

全ての選択・入力の完了後に、[変換]ボタンをクリックします。



Step.4 盛土・切土の入力(無い場合あり)

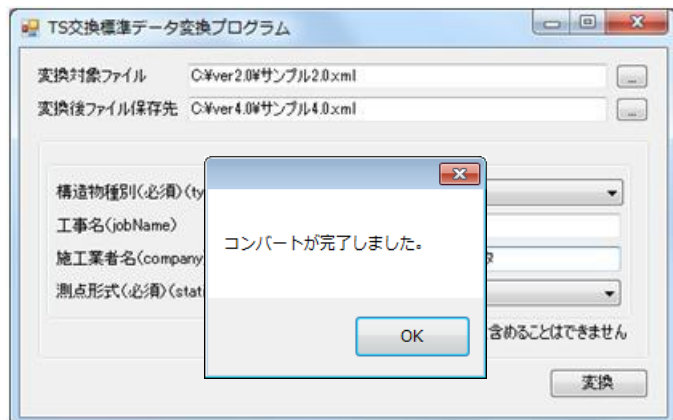
【種別を選んでください。】画面が表示された場合、画面上の情報を基に、[盛土]ボタンまたは[切土]ボタンをクリックします。



Step.5 結果の表示

①問題無い場合

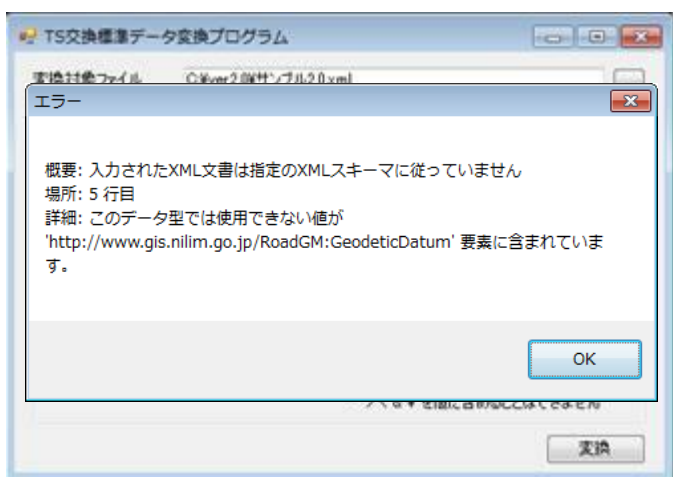
完了画面が表示されます。



変換プログラムのある場所に4つのXSDファイルが作成されますが不要です。(放置・削除可)

②問題ある場合

エラー内容が表示されます。



この場合、「TSを用いた出来形管理」に使用したソフトウェアの提供者と対応をご相談下さい。その際、問題のあるデータと共にエラー内容も送付すると、提供者は原因究明しやすいです。

【参考】電子成果品について

変換後(TS データ交換標準 Ver.4.0 準拠)と変換前(Ver.2.0 準拠)の両方の施工管理データ(XML ファイル)を成果品として納品して下さい。そのために、「TSを用いた出来形管理要領(土工編)平成24年3月国土交通省」の「1-4-2 電子成果品の作成規定」に対する追加ルールを設けております。詳細は資料「施工管理データ(データ交換標準 Ver.2.0 準拠)の納品について」を参照下さい。

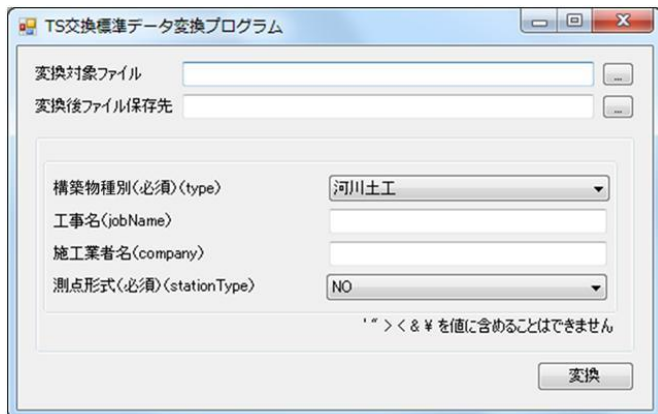
```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE othrsdata SYSTEM "OTHR05.DTD">
<othrsdata DTD_version="05">
  <サブフォルダ情報>
    <その他サブフォルダ名>ORG001</その他サブフォルダ名>
    <その他サブフォルダ日本語名>TS出来形管理</その他サブフォルダ日本語名>
    <その他資料情報>
      <資料名>TS出来形管理資料</資料名>
      <オリジナルファイル情報>
        <Ver.4.0のファイル名は「..._01.xml」>
        <シリアル番号>1</シリアル番号>
        <オリジナルファイル名>ORG01_01.xml</オリジナルファイル名>
        <オリジナルファイル日本語名>TS施工管理データ01</オリジナルファイル日本語名>
        <オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>出来形管理データ作成ソフトウェア2010
        <オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>出来形管理データ作成ソフトウェア2010
        <オリジナルファイル内容>〇〇線形のTS施工管理データ</オリジナルファイル内容>
        <オリジナルファイル情報>
          <Ver.2.0のファイル名は「..._02.xml」>
          <シリアル番号>2</シリアル番号>
          <オリジナルファイル名>ORG01_02.xml</オリジナルファイル名>
          <オリジナルファイル日本語名>TS施工管理データ01</オリジナルファイル日本語名>
          <オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>出来形管理データ作成ソフトウェア2010
          <オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>出来形管理データ作成ソフトウェア2010
          <オリジナルファイル内容>〇〇線形のTS施工管理データ</オリジナルファイル内容>
        <オリジナルファイル情報>
          <Ver.2.0とVer.4.0は同じ日本語名>
          <シリアル番号>3</シリアル番号>
          <オリジナルファイル名>ORG02_01.xml</オリジナルファイル名>
          <オリジナルファイル日本語名>TS施工管理データ02</オリジナルファイル日本語名>
          <オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>出来形管理データ作成ソフトウェア2010
          <オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>出来形管理データ作成ソフトウェア2010
          <オリジナルファイル内容>〇〇線形のTS施工管理データ</オリジナルファイル内容>
        <オリジナルファイル情報>
          <シリアル番号>4</シリアル番号>
          <オリジナルファイル名>ORG02_02.xml</オリジナルファイル名>
          <オリジナルファイル日本語名>TS施工管理データ02</オリジナルファイル日本語名>
          <オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>出来形管理データ作成ソフトウェア2010
          <オリジナルファイル作成ソフトウェアバージョン情報>出来形管理データ作成ソフトウェア2010
          <オリジナルファイル内容>〇〇線形のTS施工管理データ</オリジナルファイル内容>
        <オリジナルファイル情報>
          <その他>
            <受注者説明文>△△△</受注者説明文>
            <発注者説明文>☆☆☆</発注者説明文>
            <予備>TSを用いた出来形管理要領(土工編)平成24年3月</予備>
          </その他>
        </その他資料情報>
      </サブフォルダ情報>
    </ソフトウェアメカ用TAG>ソフトウェアメカが管理のために使用する。(複数入力可)</ソフトウェアメカ用TAG>
  </othrsdata>
```

【参考】

本システムは、インストール不要です。(USBメモリに保存した状態でも起動できます。)本システムの対応OSは、「Windows XP SP3 と Windows Vista と Windows 7(いずれも Home edition と Professional edition)」です。

2 【参考】各画面の各部名称と機能について

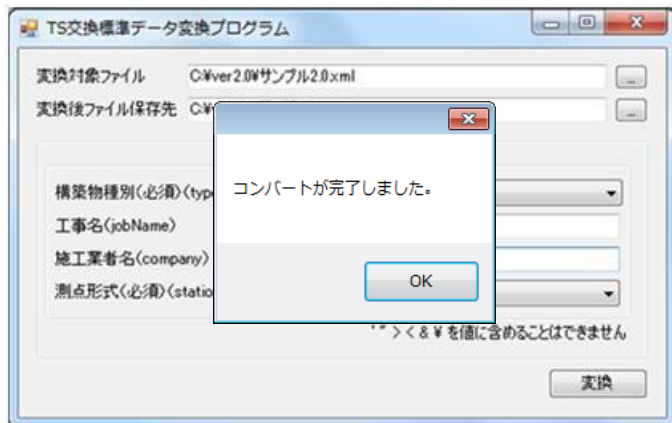
1. 起動画面



ータ交換標準 Ver.2.0」準拠の施工管理データ (XML)を、選択・入力した情報を加え「TS データ交換標準 Ver.4.0」準拠の施工管理データ (XML)へ変換を実行します。

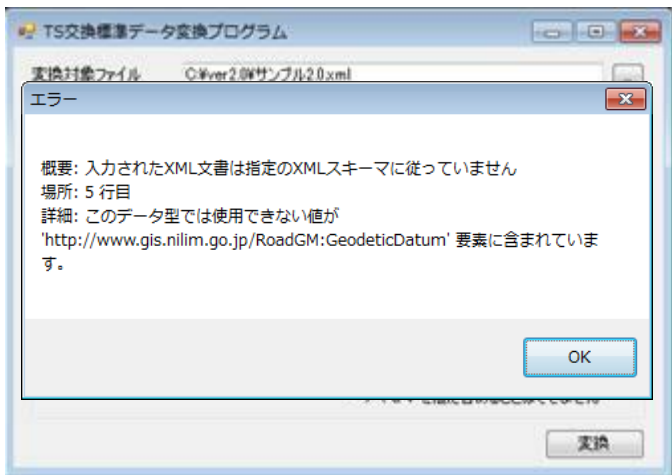
この時、指定した変換後ファイル保存先に、既に同じ名前のファイルが存在した場合には、上書き保存し、以前のファイルは失われます。

① 問題無い場合



指定したファイルが正しく「TS データ交換標準 Ver.2.0」に準拠していれば、別ダイアログで「コンバートが完了しました。」と表示します。

② 問題ある場合



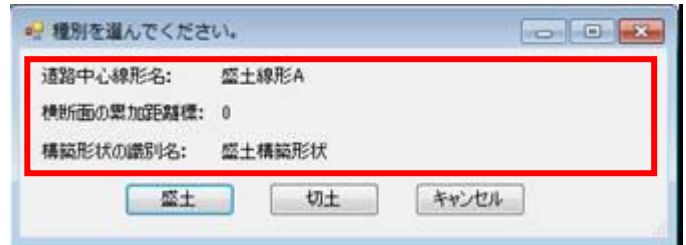
指定したファイルが正しくなければ、別ダイアログで「エラーの概要、エラーの場所、エラーの詳細」を表示します。

5. 切土・盛土選択ダイアログ



本ダイアログは、施工管理データ (Ver.2.0 準拠)の変換において、横断構成情報に「切土工」か「盛土工」を示す情報が存在しない、または、混在する場合に表示します。本ダイアログの主な役割は、変換に必要な横断構成情報の指定です。

① 構築形状パラメータ



盛土・切土を選択する必要がある横断面の構築形状パラメータを表示します。表示されるパラメータは「道路中心線形 (Alignment) 要素の名称」「横断面 (XSection) 要素の累加距離標」「構築形状 (BuildForm) 要素の識別名」の3種類です。

② 横断構成種別の選択ボタン



「盛土、切土、キャンセル」の3種類のボタンから横断構成種別を選択します。「キャンセル」を選択した場合は、処理を中断して基本画面に戻ります。